

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	姫路医療生協協同組合	代表者	西村 哲載	法人・事業所の特徴	「その人らしく、気持ちよく生きる」を法人理念と掲げ、小規模多機能の理念「一人ひとりに寄り添う 地域に寄り添う」利用者が住み慣れた地域で安心して、最後まで自分らしく暮らせるよう「訪問」「通い」「泊まり」のサービスを一人ひとりに合わせたスタイルで柔軟に組み合わせ在宅生活を支えます。
事業所名	小規模多機能ホーム城北	管理者	橋本 美加		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	4人	人	人	1人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	日々変化する利用者様の状況や環境を職員全員が把握し共有すると共に、リスクマネジメントにも取り組んでいく。	部会でAITレポートを共有しリスクマネジメントの取組みするが、全体的に意識が低い。	事業所評価にて取り組みを確認した	日々、利用者の状況・情報を自ら把握していく。
B. 事業所のしつらえ・環境	いつでも介護相談を受け付けている事を地域の方に分かって頂く為の発信をする。	運営推進会議で地域の自治会長、民生委員の方々には発信できた		地域ボランティア（レクリエーション）を再開し地域の方々にもお知らせし事業所に入りやすい環境づくりをする。
C. 事業所と地域のかかわり	コロナの感染が落ち着いてきたら延期になっている保育園児の事業所訪問を企画し直し、交流を図る。	感染対策している中、事業所の中での交流を図れる機会がなかった。	地域の近隣の方には事業所は知られているが少し離れると知らない方もおられる。	事業所便り、パンフレットを地域の方々へ配布する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	イベント等が再開されれば少人数ずつ参加していく。	地域の音楽会、秋祭りの参加することはできた	地域の行事やイベント等に参加できている。	地域住民の方々が、気軽に相談、見学ができる環境づくりをする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で出た意見を業務、運営に反映していく。	民生委員、地域包括の方々と意見交換、情報を共有することは出来た。	地域の心配な方などの情報を具体的に話し合う機会が少なかった。	自治会長、民生委員との連携をとり地域との関わりを深めていく。地域の心配な方などの情報共有をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	災害対策計画の定期的な見直し、事業所の防災訓練に、地域の方の参加をお声掛けする。	事業所内での防災訓練となってしまう	防災訓練は自治会として災害が起こった時の対応を考える必要があるとの意見がでた。	非常災害対策計画を職員と共有する。自治会、近隣住民の方々に協力要請する

--	--	--	--	--